

式 辞

厳しい冬の寒さも日増しに和らぎ春の息吹が感じられるようになった今日の佳き日に、大阪府立四條畷高等学校第77回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、在校生、教職員一同、この上もない喜びでございます。大阪府教育庁ご代表様をはじめ、公私共にお忙しい中、多くのご来賓のみなさまに、ご臨席を賜りました。高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

保護者の皆さま、お子様のご卒業、誠におめでとうございませう。心よりお祝い申しあげます。この3年間、様々なご苦勞・ご心配があったことと拝察いたします。お子様は、本校での高校生活を通じて、逞しく立派に成長されました。お子様を支え、育まれてきたことに対しまして敬意を表しますとともに、これまで本校の教育活動にご協力、ご支援いただきましたことに心より感謝申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を授与しました354名の77期生の皆さん、卒業おめでとうございませう。畷高での3年間はいかがでしたか？

授業中の真剣な眼差し、ペアワークで隣席の友人と笑顔で議論する姿、部活動で仲間と切磋琢磨し向上しようとする姿、探究活動で堂々と発表する姿、そんなまっすぐで何事にもチャレンジする77期生が私は大好きです。2年生の体育祭での突然のゲリラ豪雨。最後まで競技を続けられなかったのはとても残念でしたが、人は結果よりもそこに至るまでの過程を見て感動します。皆さんが連日朝早くから応援合戦の練習をして1年生を導き、見事に団をまとめたリーグシップは秀逸でした。「先輩たちが築いてきた伝統を継承し、新たな伝統を創る」という皆さんの熱い思いが伝わってきました。また、皆さんと行った沖縄への修学旅行も本当に楽しい思い出です。全体レクでの「もうすぐ今日が終わる。やり残したことはないかい」、「オワりはじまり」の大合唱は今も私の心に鮮明に焼き付いています。77期生の団結力を強く感じた瞬間でした。そして、迎えた3年生の畷高祭。各クラスの大劇のクオリティの高さ、クラスの一体感、圧巻のパフォーマンスに満員の観客が感動しました。大劇をクラス全員で創り上げた達成感や楽しさ、意見がぶつかった時のしんどさ、表彰され

た喜び、されなかった悔しさ、皆さんの熱い思いが一杯詰まった最高の暇高祭でした。暇高3年間の集大成として、仲間と一緒に全力を尽くして楽しむ姿に、77期生の成長を感じました。そして、自分の希望する進路を実現するため、毎日朝早くから夜遅くまで自習室や廊下で勉強する姿、引退試合まで部活動と両立しながら頑張る姿に77期生の逞しさを感じました。

「自主・自律・自由」の精神の下、授業や行事、部活動、探究活動に全力で取り組み、「文武両道」を見事に体現した77期生を誇りに思います。

現在、世界は、各地で戦火が絶えず、民主主義の危機が叫ばれるなど、将来に希望を持つことが難しく、先を見通せない不確実な時代を迎えています。

「思うに希望とは、もともとあるものともいえぬし、ないものともいえない。それは地上の道のようなものである。もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ」

中国の作家魯迅の『故郷』の有名な一節です。

皆さんはとてもやさしく謙虚です。それは素晴らしいことで、この先の人生でもずっと大切にしてほしいと願っています。しかし、同時にもっと自分に自信をもってもいい。もっと高みをめざす「野心」を抱いてもいい。もっと尖っていいと私は思っています。なぜなら、皆さんのこれから歩む「道」が社会に希望をもたらし、やがて多くの人々が歩く「道」となる。皆さんにはそんな才能と無限の可能性があるからです。

「今のままじゃだめだ。もっと成長したい。もっと成功したい」。皆さんはそんな野心を持っていますか？その野心は社会に貢献できるものですか？若者の特権は、「何でもできる」ではなく、「何でもできると思える」ところにあります。野心は大きくても小さくてもかまいません。これからの長い人生の中で、全力で挑むことができる「野心」を見つけてください。そして、その「野心」を自分の人生を豊かにするだけでなく、世の中を豊かにすることにつなげてください。世界は、答えのまだない課題に満ちています。皆さんが、混迷する世界に希望の灯をともし、多くの人々が歩く「道」をつくる次世代のリーダーになってください。77期生にはそれができると私は信じています。

皆さんは、4月から新しいステージで学びます。そこではいろいろな人との出会いが待っています。高校までは、優しい言葉や温かい言葉に触れる機会の方が多かったかもしれませんが、しかし、大学や社会へと進むにつれて、責任が重くなる分だけ、厳しい言葉やつらい言葉、悲しい言葉に触れる機会が多くなるはずですが、つまずいたり、壁にぶつかったりすることもあるでしょう。そんな時は、少し立ち止まって、暁高での3年間を思い出してください。そこには、時には厳しく、時には優しく接して下さった先生方、ともに喜び、ともに涙した仲間、温かく見守って下さったご家族など、多くの方の励ましや支えがあったはずですが、これからも皆さんが全力で頑張っている姿は必ず誰かが見守ってくれています。そして、私たち暁高の教職員はこれからもずっと皆さんの応援団です。

結びに、皆さんの前途が健康で幸多きものでありますことを心からお祈りして、式辞といたします。

令和7年2月28日

大阪府立四條暁高等学校長 稲葉 剛